

芸術
みどころ
コラム

令和2年度

問い合わせ 文化振興課(市民ギャラリー内) 77-6853

市民公募文化事業開催!

舞台芸術の振興や鑑賞する機会を増やし、市民による自主公演を支援することを目的として、毎年、市民会館サルビアホールやへきしんギャラクシープラザマツパホールなどで開催されています。

今年度は、下記の4つの演奏会を予定し、それぞれ工夫を凝らしたステージになります。

身近に舞台芸術を楽しめるよい機会です。遠くまで行けない方、めっきり出かけていないという方、ぜひ足を運んでください。



| No. | 事業名 | とき | ところ | 入場料 | 内容 |
|-----|---------------------------|---------------------|-----------------------------|--------------|---|
| 1 | Blume音楽教室 弦楽器に触れ合おう | 11月21日(土) 14:00~ | 昭林公民館 ホ | 1,000円 | 童謡、唱歌、アニメソング、クラシックを演奏します。子どもからお年寄りまですべての方に楽しんでいただけます。 |
| 2 | 安城市民吹奏楽団 第48回定期演奏会 | 12月6日(日) 13:30~ | 市民会館 サルビアホール | 無料 | 一年の集大成として演奏会を開催します。市民に音楽鑑賞の機会を提供し、生涯学習としての音楽活動の素晴らしさを、本演奏会を通じてアピールします。49年間の活動の感謝の気持ちを音楽でお伝えします。 第1部:クラシックステージ 第2部:ポップスステージ |
| 3 | ビッグバズ・オーケストラ 第15回定期演奏会 | 12月12日(土) 14:00~ | 市民会館 サルビアホール | 無料 (要整理券) | ビッグバンドのダイナミックなジャズサウンドと美しい女性ボーカルで懐かしのメロディを皆さんに楽しんでいただけます。 第1部:スタンダードジャズ 第2部:ポップスと懐かしのメロディ |
| 4 | 安城市少年少女合唱団 第16回演奏会 | 12月13日(日) 14:00~ | へきしん ギャラクシープラザ マツパホール | 無料 (要整理券) | 幅広い世代に親しみのある、まどみちお作詩の童謡を通じて、日本語の美しさを感じ取っていただけます。また、ボディパーカッションでは、体全体を使って表現し、音楽の可能性を市民の皆様にお伝え致します。 |

開演時刻、入場料、演奏内容等は変更となる場合があります。詳しくは、順次掲載予定の広報あんじょう、市ホームページ望遠郷、チラシをご覧ください。

文化の花園にようこそ

問い合わせ
文化振興課
(市民ギャラリー内) 77-6853
安城文化協会事務局 74-6066

文化グループ紹介 美術(工芸) ぐるーぷ染趣

平成9年に3名で結成し、作品展をへきしんギャラクシープラザ(文化センター)で開催した3年後、文化協会に入会した染色の会です。布、糸、原毛などで、ろうけつ染、絞り染、草木染、織、フェルトなど、さまざまな技法で作品づくりをして、「染める」ことの共通点で集いました。「異なる技法の交流をしながら、お互いを高めあいましょう。」これが会のモットーです。

会員は、全国レベルの公募展や安美展などで活躍する人、趣味で身のまわりの物を楽しみながら制作する人など、個性豊かで自由です。

染色に関心のある方や入会を希望される方はご連絡ください。染色未経験の方、大歓迎です。身近な小作品から第一歩を踏みだしましょう。

連絡先 平松 弘子 090-1753-1161



文化グループ紹介 芸能(民謡) 竹友会

民謡と和太鼓の竹友会です。民謡、津軽三味線、和太鼓を研究しています。平成元年より毎年欠かさず発表会を行い、今年は第32回目の発表会を安城市民会館サルビアホールで開催しました。他に高齢者施設のボランティアを年50~60回、安城七夕まつりや市の行事、各町内会や公民館などの芸能まつり、夏祭り、敬老会などにも積極的に参加しています。安城市はもとより、碧南市、西尾市、高浜市、蒲郡市など幅広く活動しています。

民謡、津軽三味線、和太鼓に関心のある方、入会や見学を希望される方はご連絡ください。

連絡先 長澤 さつき 92-1889



文化財
ジャーナル
vol.55

気は優しく、力持ち ~安城出身の大相撲力士 濱碓又七~

安城出身の大相撲力士

昨今の相撲は、外国人力士も含めて白熱した取組が繰り広げられています。安城にもかつて大相撲で活躍し、後に薬の行商人として人々を助けた力士がいました。それが濱碓又七です。

安城から大相撲へ

安政3年(1856)に安城市里町に生まれた濱碓(本名 畔柳又七)は、慶応3年(1867)12歳頃から「濱碓又七」という四股名で草相撲(アマチュア相撲)を取り始めました。明治11年(1878)23歳の時に上京、三州前浜村(現在の碧南市)出身の5代目清見瀧又市に入門し、明治14年(1881)26歳には大相撲で三段目まで昇進します。しかし、不運にも茨城県土浦で巡業中に膝を故障したことが原因となり、明治16年(1883)28歳で引退し、志半ばで故郷に戻りました。

薬の行商人として生きる

膝の治療にあたっていた森林平医師の後押しを受けて、明治18年(1885)30歳の時に濱碓薬館を創業し薬の行商を始めます。そして、明治24年(1891)に発生した濃尾地震では被災者の治療に奔走する森医師を助けた。このことがきっかけとなり、森医師から全国的に有名であった浅井万金膏薬の三河地方での独占販売権を無償で譲り受けました。

また、明治30年(1897)頃から薬の行商のかたわら、恩を受けた人々などの石碑や石像などを建て始めました。今でも濱碓が建てたといわれる石碑や石像は各地に残っています。

濱碓又七、再び大相撲へ

濱碓は、三河地方の相撲興行の代理人としても活躍しました。熱田社(小川町)に納められている相撲奉納額には、明治34年(1901)に桜井神社(桜井町)で相撲の地方巡業が行われ、代理人を意味する「三河目代」として名前が記されています。村の人々は祭りや相撲を行うにあたり、力士や行司を派遣してもらえるよう真っ先に濱碓のもとへ頼みに行っ



濱碓又七

たそうです。こうした相撲界への貢献が認められ、大正元年(1912)56歳の時に横綱梅ヶ谷一行が安城興行で訪れた際、本来は親方しかできない取組の検査役を務めるといふ栄誉を与えられました。

昭和6年(1931)76歳でこの世を去りましたが、濱碓薬館はハマイカリ山口旭薬局と名前を変えて現在も続いています。「気は優しく、力持ち」という言葉がぴったり似合う濱碓の心が、今もなお受け継がれています。

問い合わせ 文化振興課(歴史博物館内) 77-4477



濱碓石像(安城市里町 青麻神社内)
※濱碓が建立した石像



森林平之碑(安城市里町 青麻神社内)
※濱碓が建立した石碑



山口旭薬局(大正2年~昭和12年)